

新大工町ザ・くんち

手ぬぐい・Tシャツ、デザイン決まる

手ぬぐい、Tシャツのデザインが決まりました。

いずれも新大工町の象徴である紅葉をあしらひ、詩舞、曳壇尻共通の仕様にして町の統一イメージを印象づけているのが特徴です。

手ぬぐいは朱色の生地に、町と縁が深い奈良・春日大社の神鹿と紅葉を白抜きで配したデザイン。ゆったりと伸びやかな雰囲気を感じさせています。写真下。

スタッフら関係者が着るTシャツは、黒地の背中にカラフルな曳壇尻と詩舞の舞扇を配しました。写真左。大変インパクトのあるデザインです。一部市販の予定で、おおいに評判を呼びそうです。



曳壇尻委員長補佐

尾上泰啓

今年の曳壇尻では、

曳壇尻

特に2点に留意しています。一つは、これまでの歴史と伝統を活かし、素晴らしい奉納踊りを行うこと。二つ目は、町として次代につなげる基礎を作ることです。

松尾昌弥・白采率いる曳壇尻チーム25人は、3月から稽古を開始。現在は筋トレや走り込みなど基礎体力づくりに励んでいます。くんち本番の3日間、朝から夜まで重い曳壇尻を曳き回すためには、瞬発力だけでなく、

持久力が必要です。6月の小屋入りまでに、体幹や足腰を鍛え、持久力をしっかりとつけていきます。

一方、役員チームは、財政面を含めた踊りとしての総合的な成功を期して、今、庭先回りコースの検討を続けています。

曳壇尻は出演者にスタッフを加えると、70人を超す大所帯。食事や休憩場所なども含めて、どんなコースで回ればより効果的に、より多くの庭先を回れるか、住宅地図を片手に実際に踊町エリアを歩きながら詰めているところですよ。



詩舞季員長

安田静馬

詩舞

詩舞の稽古も、はや3か月が経過しました。前頭先生の指導の下、10人の舞人たちは毎週違った表情を見せ、一歩一歩進化しつつあります。既に「祝賀の詞」「坂本龍馬を思う」の振り付けもほぼ完成に近いところまで来ており、鶴洲流長崎吟詠会の皆さんの吟に合わせた稽古も始まりました。これから細かい動きの一つひとつに磨きをかけ、精度を高めていくこととなります。

今回は、庭先回りを考慮して、さらに「天の原」を加える予定です。前頭先生、舞人には大きな負担をかけることとなりますが、関係者の助力も得て着実に仕上げていきたいと考えています。

詩舞の奉納は平成六年以来、今回で4回目です。これまでとは、また違った魅力にあふれる奉納を披露できるよう努めています。町内の皆様のご支援とご協力をお願い致します。

曳壇尻トレーナー

新大工町整骨院
溝口勝則



本来は新大工町の根拠として参加させて頂いたのですが、勤務時間等の都合がつかず断念しました。しかし、何とんでも曳壇尻に関わりたいと思い、自分ができる「トレーナー指導」「ケガの治療」というスキルを活かし、ボランティアでトレーナーとして参加することを決意しました。

トレーナー理論に基づいた、トレーニング計画・トレーニングフォーム・運動強度等の指導を通し、安全で効果的な練習メニューを提供します。くんち本番で心身ともに最高の状態で曳壇尻を奉納できるように一生懸命サポートします。宜しくお願い致します。

トレーニングを開始してまだ2カ月ですが、あっという間に10月になります。常にくんち当日の事をイメージし緊張感をもって稽古に臨みます。今後とも、宜しくお願い致します。



はじめまして。詩舞指導させて頂いて分厚前頭死徳でございます。町内の皆様、曳壇尻、詩舞の皆様方と御縁を頂き感謝申し上げます。振り付けに感謝し、舞人達の覚悟の早さに救われて今日この頃です。皆様方の応援、場作り、心一つに詩舞を奉納させて頂きます。

平成二十七年四月十六日

前頭死徳

新聞記事に見る新大工町のくんち

「傘鉾」の変遷について(上)

奉賛会顧問 山口康平

「新大工町」という小冊子を刊行するとき、新聞記事を明治三十四年まで遡って調べた結果、色々興味深い記事に出会いました。今回は新大工町の「町じるし」として、常に従列の先頭に立ち奉賛会長といえども、その前を歩くことが許されない「傘鉾」について記述します。

* * *

明治四十一年十月二日付の鎮西日報によれば、「標飾は秋の社頭を思はせる紅葉に金燈籠二つをあしらひたり。垂帷は猩々緋に春日神社の景色を刺繍したる精巧の物」また、同年十月十一日付の東洋日の出新聞では「猩々緋の傘鉾は丸山の対すれば恰も還暦翁と老妓との比較なり」とあり、スケールが大きくて美しく、おごそかな垂れであったことがうかがわれます。次に、大正五年の踊町の際に以前から使用されていた垂れに

代わって三社紋をあしらった新しい垂れが作られたとき、大正五年十月六日付の長崎新聞では「飾は三社紋を置きたる金燈籠を燃ゆばかりなる紅葉の木の間に見せ輪は注連、垂帷は本年の新調にて白茶地糸鉾に金糸にて三社紋を現はしたり」と報道されました。

* * *

その後、八十四年間使用された垂れの傷みが著しく、平成十三年に新調されました。その垂れの三社紋は大正五年に制作されたもので、刺繍の技術的価値が尊重され、一部補修をしたうえで後世に引き継がれています。なお、傘鉾の庭先回りは、昭和四十年のくんちから廃止されました。

*猩々緋・赤味の強い赤紫色。南蛮貿易の舶来品と珍重されたラジャの生地など。



引用文献 長崎市踊町諏訪神社傘鉾 長崎歴史文化博物館 所蔵



曳壇尻 稽古風景 詩舞



寺井修三さん

吟詠で全国4位に



奉賛会詩舞委員の寺井修三(扇洲)さんがこのほど、第43回クラウン全国吟詠コンクールで第4位に入賞されました。年一回開かれる同コンクールで上位10位以内の入賞者は、以後、クラウン吟友会会員として、全国に活躍の場が広がることになります。

寺井さんは、平成6年(1994年)のくんちで新大工町が初めて詩舞を奉納した後、地元から吟士を、という声があり、鶴洲流長崎吟詠会に入門。今年もくんちでも詩舞の吟士として詩吟を奉納します。

「新大工町WEBくんち」立ち上げ

「新大工町自治会・くんち奉賛会」のほど、公式フェイスブック(FB)ページとして「新大工町WEBくんち」を立ち上げました。写真下。秋のくんち本番に向けた詩舞や曳壇尻の稽古風景、奉賛会の準備状況などを「新大工町サ・くんち」紙面とも連携しながら逐次、映像満載でお伝えしていきます。ご覧になるには、FBのホームページから「新大工町WEBくんち」で検索してください。今後さらに内容を充実させていきますので、FBアカウントをお持ちの方は「いいね」をクリックしていただければ幸いです。



新大工町くんち奉賛会・日程表

5月	10日(日)	8時〜打ち込み囃子用道 具類搬出山伝統雲能館 18時〜くんち出場者激励 会サンプリエル
	18日(月)	19時〜打ち込み囃子稽古 ※新大工町市場2階
	6月	
	1日(月)	小屋入り
	6時〜起こし太鼓	町内一巡
	7時〜二番太鼓	町内一巡
	8時40分〜清祓い	諏訪 神社・八坂神社
	13時〜打ち込み	伝統雲 能振興会・踊町・年番町

「WEBくんち」は当面、広報委員会(瀧本裕・兒島正数・関了介)で運営しますので、ご意見、ご注文などをお寄せください。